

第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	岡山県浅口市立金光中学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	思いよ届け！人権・防災教育を意識した表現活動

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1、活動に至る経緯

本校がある浅口市は岡山県の南西部に位置し、日本最大級の天文台がある遥照山からは瀬戸内海の多島美を一望することができ、温暖な気候と豊かな自然に恵まれた町である。金光中学校は三つの小学校区をもち、本年度の全校生徒は270名。（学級数は12（支援学級3を含む））。「先言後礼」を生徒会の取り組みとして徹底しており、授業の前後には礼儀正しくしっかりと挨拶をすることができる。生徒は、明朗で快活な生徒も多いが、自己表現が苦手であったり集団の中で意志の疎通ができにくいというような場面も見られたりする。しかし、慣れ親しんで話しをすると人懐っこく話す生徒や、物事をじっくり考えて伝えようとする生徒も多く、コミュニケーションの機会を持つことの必要性を感じさせる。

2、活動・研究の目的(ねらい)

「話す」こと「書く」こと、相手にわかりやすく「伝える」ことや、また詩歌や書写などの作品を創り、できた作品を互いに鑑賞したり評価したりする機会をもつなど、実践的に生徒の表現力・創造力、そして行動力の育成をはかり、心の深化を高めることにもつなげたい。また、人権や防災に関する学習をする機会を意図的に設け、「感じ」、「考え」たことを「伝える」ことや、『命を守る』言葉や表現について学び、身につけさせる。

3、活動内容

- 「広島平和研修」・・・「平和を希求する思い」を作品にする（平和宣言、詩、短歌、俳句など）
 - ・『平和の詩』作品展（廊下、踊り場など空きスペースにて）
 - ・地域の「金光キッズフェスティバル」にて展示



「広島平和研修」や国語科授業の平和教材の学習などから、「平和を希求する思い」を詩歌を創作し、鑑賞し合いながら思いを伝えることができるよう、詩歌を短冊に書いた風鈴やポストカードを作成し、展示し、校内のみならず、地域の行事では多くの一般の方にも鑑賞していただくことができた。

○「ヒカリカナタ基金」竹内昌彦先生を招聘しての人権講演会『私の歩んだ道』



「人権講演会」は、当日、お話を聴くということだけではなく、事前の準備として、演題を揮毫したり、視覚障がい者の講師のための点字ブロックを敷くなどの準備も積極的に取り組むことができた。講演会を自分たちの手で作りあげていこうとする意識や、視覚障がい者理解をすすめることができた。講演会後の感想や講師への手紙や記録写真を工夫してアルバムにまとめ届けた。

○プロのアナウンサーを招聘しての「話し方教室～命を守ることば～」



プロのアナウンサーを招聘して、「命を守ることば」という防災をテーマにした話し方教室を開催した。日々の報道のみならず、平成30年の西日本豪雨災害や本年1月の能登半島地震の取材・報道を実際に現地で行ったアナウンサーから、その際に感じたことや、緊急時に命を守るために日々行っている報道の訓練などを聞き、災害時を想定して実践的な体験授業を実施していただいた。

○「防災研修」……西日本豪雨災害の被災地を訪ねて

記憶に新しく近隣の市である真備町を訪れ、当時の被災の現状や、現在の復興への過程を現地で学ぶことができた。また、消防署の見学から災害時の体験や消防士としての役割を熱い言葉で語っていただき、働くことの意識も深めることができた。



○その他の取り組み

- ・東日本大震災、能登半島地震などの写真や新聞記事を使った展示
- ・国語科授業では、文学作品学習後の感想や詩歌などの創作
- ・本年1年間の生徒作品を、詩集として製本予定。

4、子どもたちへの効果（成果・課題）

「話し方教室」や講演会などで実践的に学ぶ機会を作ったり、創作した作品を掲示・展示する機会を作ったりすることで、生徒は「伝える」ことの大切さを実感しながら学習できた。さらに、友達作品を鑑賞したり互いに認め合うことから喜びや心のつながりを感じることができたのではないかと期待している。さらには《「伝える」ことは大切だ》と実感するだけでなく、それは「楽しいこと」と実感して、対話したり書いたりなど積極的に自己表現できるきっかけとなっていくのではないかと期待している。次年度以降も本研究を継続して取り組み、人権意識、防災意識を高めながらの国語科授業、表現力向上を図りたい。